

## 令和4年度選定自治体SDGsモデル事業

## 現地訪問報告書

ページ	都市名
P1 - 3	宮城県大崎市
P4 - 6	千葉県松戸市
P7 - 12	東京都足立区
P13 - 14	新潟県新潟市
P15 - 17	岐阜県恵那市
P18 - 19	大阪府阪南市
P20 - 23	和歌山県田辺市
P24 - 27	鳥取県
P28 - 30	熊本県八代市
P31 - 35	熊本県上天草市

## 大崎市 現地訪問 報告書

1. 訪問先:大崎市
2. 訪問日:令和4年7月26日(火)
3. 訪問者:自治体SDGs推進評価・調査検討会 小田切委員  
内閣府地方創生推進室 古南武永研修員, 堀江仁美研修員
4. 意見交換概要:

### (1)大崎市発言要旨

大崎市のSDGsの一端を見ていただけたと感じている。世界農業遺産を認定されて5年を迎えて、より発展させる、より多くの方に関わっていただきたいという思いも含めて、SDGs未来都市を目指している。より一層地域の方々、企業や個人に関わっていただきたいと考えている。経済・社会・環境が回らなければならないと考えており、大崎市のモデルを作っていきたいと考えている。

### (2)小田切委員発言要旨

今までの154提案含めて、農業を中心とした提案が少なかった。また、北日本の採択が少なかった。大崎市は農業を中心としたモデルとなる提案であり、大崎市が採択されて動き出すことで、他の農業地帯が今後動き出すことが、強い思いであると同時に感謝している。

- ①世界農業遺産に認定されていることから、大崎耕土が持っている本質を要素に分解し、暗黙知も含めた意味までたどり着いており、具体的なデータやエビデンス、広げていく手法、ベーシックのところから開発に出ているということがすごいと感じた。ベーシックなところから開発に乗り出すということは大変なことであり、その部分で勝負をしようとするとし難しさがある。しかし、ネイチャーポジティブを実証実験に含めて行っているところが他所ではできないことだと感じており、素晴らしい。データ、エビデンスを取り、実証実験をすることが重要。地域の中での大崎耕土を中心としたSDGsの基盤づくりを行っていると感じた。
- ②明らかになったことを環境・経済・社会行動広げていくことが求められるが、その入り口部分が提案されていた。しかし、経済行動に結びつけるための具体的な経済行動であるブランド、ツーリズムが比較的抑制的。基礎的なことを行っているため、大きな成果を期待してはいけないという部分にシンパシーを感じているが、世界に冠している農業システムをもっと売りに出せないかと感じていると同時に皆様の悩みの一つであると感じた。経済・環境・社会に広げていくときに、とりわけ経済面に関してどのように考えているのかを伺いたい。

### (市側回答)

経済面に関して、ブランド化やツーリズム等を行っているが、それが目に見える形になっていない部分もある。関連する人を増やし、活用をみんなで共有していきたいと考えている。ブランド化に関して、世界農業遺産の認定時より一つの柱としているが、勝負しているフィールドが土地利用型作物になっており、

世界農業遺産，SDGsをどう関連付けていくのか。おいしい米は日本各地どこでも作れるが，他との違いを見せるためには環境に配慮していると言い切れるところ，説明可能な価値を求めていきたいと考えている。お米のブランド認証では，生きものモニタリングを要件としており大事に育てているのが現状。ブランドの認知度の跳ね上がり，期待はしているものの楽観視してはおらず，ブランド認証品については，米だけでなく肉などについても検討している。地域で関わっている方が頑張れる場所を作ることに移行し，過渡期であり，提案しきれなかった部分でもある。ツーリズムについては，農泊地域としてグリーン・ツーリズムを実施してきたという自負はあるが，そこから次のステップへと勢いがついてきたときに，コロナで事業者が廃業していくという状況になり，ツーリズムの次が見いだせないでいる状態。その中でSDGsを知っていると人たちに，GIAHSを付加し，価値を目指していくところに活路を見出したいと考えている。

- ③合併時にコミュニティづくりで日本のトップモデルの一つという認識を持っている。流域組織をふくめたコミュニティ面が，今回の提案の中にあまり入っていないと感じた。地域のコミュニティを巻き込みながら，この活動をどのように推進していくのかという切り口があまり見えないことに意味があるのではないかと考えているがどうか。農業中心にしてベーシックなところをしっかりと押さえていることが勇気ある提案であり，高く評価している。

(市側回答)

大崎市が合併した時に市民協働自治組織というものを柱にし，コミュニティで充実させることを実施してきたが，コロナで地域交流が希薄になっている部分もある。大崎流域自治組織という言葉を使うことに若干抵抗があった。第2ステージにいけない地域組織がある中でSDGsとGIAHSをどのように結び付けていけばよいか模索中である。今回は組織をプラットフォームにどのように組み込ませ，SDGsの基本的な考え方を基に，第2ステージをどのように描いていくのかを考える。GIAHSが最高の財産だと感じており，その想いも含ませていただいた。

- (2)古南武永研修員発言要旨

基礎となるデータづくりをしっかりとしていただき，これからは生かしてほしい。農業遺産とSDGsの2つの柱に期待している。

- (3)堀江仁美研修員発言要旨

ネイチャーポジティブ定量化は難しいことだと思うが，ブランド化に繋がっていただければよい。情報の発信がうまくいけば地域にお金が戻ってくる。それが地方創生成功のカギとなるのではないかと考えている。今後の発信に期待している。

## 5. 訪問概要:

- (1)屋敷林「居久根」(大崎市古川地域)

世界農業遺産「大崎耕土」のランドスケープ屋敷林「居久根」についての概要や今後実施予定のネイチャーポジティブの取組，また，水田との生物多様性の定量

化について、説明を行った。



屋敷林「居久根」の概要説明



居久根の樹木



家の周辺の居久根の機能などを説明

## (2) 八寸筒(大崎市田尻地域)

世界農業遺産「大崎耕土」の地域資源を使ったツーリズム, GIAHS ツーリズムについて、八寸筒の案内看板を使い説明を行った。



水管理の地域資源を視察



案内板の QR コードで動画視聴

## (3) ふゆみずたんぼ, スマート農業, ラムサール条約湿地「蕪栗沼・周辺水田」(大崎市田尻地域)

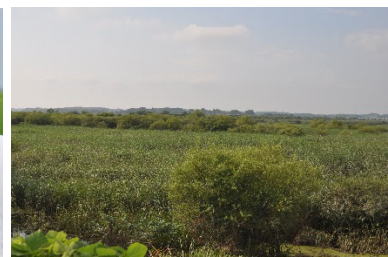
渡り鳥と共生する農業「ふゆみずたんぼ」, その圃場で実施しているスマート農業, ラムサール条約登録湿地でかつ世界農業遺産における重要な資源である「蕪栗沼・周辺水田」で、生物多様性や遊水地機能などの重要性の説明を行った。



冬の間、水を湛える冬季湛水の圃場



ふゆみずたんぼでのスマート農業



自然豊かな蕪栗沼を訪れた

## 千葉県松戸市 現地訪問 報告書

1. 訪問先 : 千葉県松戸市
2. 訪問日 : 令和4年7月15日(金)
3. 訪問者 : 自治体SDGs推進評価・調査検討会 城山委員

内閣府地方創生推進室 伊佐治研修員、尾上研修員

### 4. 意見交換概要:

#### (1) 千葉県松戸市発言要旨

##### ①松戸市の現状について

人口50万人都市。高度経済成長時にベッドタウンとして発展してきた歴史がある。現在は住宅地として成熟してきている中で、特に少子高齢化等の問題が他地域より顕著である常盤平団地エリアをモデル地域として、持続可能なまちづくりの視点から、自治体SDGsモデル事業に取り組む。

##### ②Z世代と地域住民の現状について

市内4大学とはそれぞれと包括連携協定を締結しており、URを巻き込み団地内でイベントを展開している大学もある。また、団地自治会の中には若者を生活面でサポートしていきたいという考えがある方もおり、Z世代の入居促進事業についても取り組んでいきたい。

## ( 2 ) 城山委員発言要旨

### ①自治体SDGsモデル事業のテーマ設定について

近隣市の柏市や流山市のように、新たな住宅開発を進めどんどん人口を呼び込むのではなく、既存のものを中心に、なかでもUR団地をどのように活かしていくかという取り組みであることが理解できた。

### ②自治体SDGsモデル事業の展開について

Z世代とのコラボは今までにないテーマであり、委員の関心もあるが、どうやって事業を進めていくか難しい側面もある。イベント・インターン・大学とのコラボがどのようにできるかが重要。また、既存の取組みに関わる仕掛けがあっても良いと思う。



5. 訪問概要：

(1) UR 常盤平団地

①視察内容：自治体SDGsモデル事業の事業エリアとなる常盤平団地の現地視察を実施。

②参加者：内閣府 城山委員、伊佐治研修員、尾上研修員

UR都市機構 岡田ストック推進事業課長、

内藤ウェルフェア推進課長

松戸市 中平市政総合研究室長、東海林主査

③視察場所：別紙「常盤平団地状況図」を参照

以上

## 足立区 現地訪問 報告書

1. 訪問先：足立区
2. 訪問日：令和4年7月14日(木)
3. 訪問者：自治体SDGs推進評価・調査検討会 竹本委員  
内閣府地方創生推進室 田中参事官補佐、坂野研修員、古南研修員
4. 意見交換概要：

### (1) 足立区発言要旨(伊東政策経営課長)

#### ①全体計画について

- ・地域の実態として、区の活力を蝕む「貧困の連鎖」と払拭しきれないマイナスイメージの2つを挙げている。
- ・当区のボトルネック的課題として、「治安」「学力」「健康」「貧困の連鎖」の4つがあり、これらを解消しない限り、正当な評価を得られないと考えている。その中でも根底となっている課題が「貧困の連鎖」である。
- ・「貧困の連鎖」が解消しない限り、「治安」・「学力」・「健康」も向上しないと考えている。
- ・マイナスイメージの払拭については、区民の評価は上がってきているが、区外の方からはあまりイメージが良くない状況である。
- ・2030年のあるべき姿として「誰もが一步踏み出せるレジリエンスの高いまち」を掲げている。子どもと若者が「夢」や「希望」をもって挑戦できるまち、新しいチャレンジを通じて、成長できるまち、オール足立で脱炭素社会の実現に向けて挑戦するまちを目指していきたい。
- ・高い壁を乗り越えていくことを区としても目指していきたいし、子どもたちにもそのような力を身につけてもらいたい。

#### ②モデル事業について

- ・社会面に記載しているチャレンジ学級、居場所を兼ねた学習支援事業、地域に開かれた図書室は先ほど視察したところである。
- ・統合的取組としては、やりたいことを話し合う場である「アヤセ未来会議」、その実践の場である「高架下 LAB」など多数の取組を記載している。
- ・区としても2030年に向けて、計画を着実に推進していく。

### (2) 竹本委員発言要旨

- ・計画書に記載していることを、実際に現場に行ってみると説得力がある。
- ・綾瀬でモデル事業に取り組んでいくという意気込みが伝わった。
- ・モデル事業としてやろうとしていることが、非常に焦点が定まっている。
- ・(チャレンジ学級)子どもたちが遅れをとらないように、良い環境で自分たちの学力をつけられるといったことに感慨深いものがあった。
- ・数よりも質が大事である。足立区民としてこれから育っていく若い世代を、何と



かしてよい形で軌道にもっていく努力が感じられた。

- ・若い人達を育てていくのは行政の誘導が大事けれども、それをサポートする舞台が重要。それについては今回提案されたモデル事業に組み込まれている。そこについて詳しく聞きたい。
- ・アヤセ未来会議や高架下の取組がこれからということで、目に見える形で大変期待している。現状を把握し、目指すべき具体的なイメージも持たれている。
- ・軌道にのるまで2～3年かかるだろうが、今始めないと結局同じ形で時間だけが経ってしまう。ここで果敢にチャレンジする姿勢、それなりの投資をするという意気込みを具体的にお話頂けた。
- ・割と計画上の話と実際の話がかけはなれることが多いが、足立区は具体的なイメージを持ち、力強い計画である。
- ・高架下の取組はひとつ大きなチャレンジである。どのように地域に根差していくのか興味深い。社会にどうインパクトを与えるか楽しみである。
- ・運営には多くの人は参画するとのことだが、非常に重要である。きっかけをつくるのは行政であるが、持続的なものにしていくためには、地域の方々の参画を得るというやり方はとても良い。
- ・実際にポテンシャルの高い人たちがアヤセ未来会議の核になっていく。これが足立区のモデル事業のコアな部分になっていくと思う。
- ・高架下、マルシェのような場の広がり、アヤセ未来会議のような人の広がりをどのように戦略的イメージをしているのかお伺いしたい。

### (3) 足立区発言要旨(近藤区長)

- ・プラットフォームにどれだけ多くの人たちが参画できるかが鍵である。UR 団地ですでに活躍している方々や、藝大の寮もあり若い世代が多い。高架下の雑多な場所を魅力だと受入れてくれる方々には、参画してほしい。
- ・綾瀬のポテンシャルに魅力を感じてくれている中小企業や区外の方もいる。どういう形で関わってもらうかはひとつひとつ見ていく必要がある。綾瀬のまちだけに限定するのではなく、全国からでも参加してほしい。それには情報発信を積極的に行っていく。
- ・成功体験として、千住のまちは大学が来たから変わった。区がしたことは大学を誘致したことだけ。あとは自然発生的にドラスティックに変わっていく様子が身に染みて感じている。綾瀬でも第二の千住として成功させていきたい。

### (4) 竹本委員発言要旨

- ・まちは生きものである。コントロールしてつくったまちは人工的でつまらない。足立区の良いところは人間味、温かみがある。人間がつくるまちということで非常にポテンシャルが高い。新たな社会的チャレンジとなる。
- ・10年先を見越した戦略的タイムラインを教えてください。

#### (5) 足立区発言要旨(近藤区長)

- ・高架下については、時間がかかっても良いから未来会議できちんと議論したものを反映させていかないと、参加した方の意欲をそぐことになる。
- ・未来会議を立ち上げて半年じっくり練り上げる、イメージでは 2~3 年のうちには作り上げていきたい。
- ・高架下の形が見えてくると、外から見ている人も面白そうだと思って参加してくる。形をつくることにはスピード感を持って 2~3 年でやっていきたい。
- ・交通広場については、令和 6~7 年にかけて整備していく。

#### (6) 竹本委員発言要旨

- ・スピード感は大事である。志のところから固めるのはすごく大事。形からはいつてしまうと行政がコントロールすることになる。地域の方々と対話をしながら考え方が醸成していくことには根気がある。早い段階で方向性が見えたところでアナウンスしていく、「こういう考えなんだ」と区民にアピールすることが良い。
- ・あまり時間をかけるのではなく、加速をしながらイメージを共有していく。フィジカルなファシリティは時間がかかるが、志がしっかりしていると力がついてくる。
- ・行政はきっかけづくり、方向性をつくる。高架下はまさに出発点。地域の方々の知恵や魂を大いに使い、活かせると化学反応が起きて地域のちからになる。
- ・千住型にたいして綾瀬型のシンボルになると期待している。

#### (7) 足立区発言要旨(近藤区長)

- ・綾瀬は古い歴史的な名士が多い地域である。急に若い人たちが何かはじめることに対して抵抗があるかもしれない。そこは区が未来会議を守っていく。

#### (8) 竹本委員発言要旨

- ・歴史と文化は簡単に変えられない。古い人たちと新しい人たちの融合させることも新しいチャレンジである。
- ・いつの時代も新旧の問題はある。千住の場合はどうだったのか。

#### (9) 足立区発言要旨(近藤区長)

- ・平成 18 年に藝大がきたが、大学誘致は区の悲願であった。
- ・若い人が増えると治安が悪くなるという声が上がると思ったが、大学誘致で千住のまちを盛り上げていこうと地元の方々と一致した。

#### (10) 竹本委員発言要旨

- ・大学はコミュニティと連動している。大学は教育といった機能が揃っている。今回の綾瀬でのチャレンジは都心に通う若い世代だけでなく、古い歴史のある方々たちにも良い刺激を与えるのではないかと。

#### (11) 足立区発言要旨(近藤区長)

- ・1つ質問がある。SDGs認定企業制度についてだが、区には SDGsという言葉は使っていないが、WBL 認定制度や環境分野での認定制度などの認定制度がある。
- ・今ある制度を SDGsとして衣替えしていくのか、SDGsという大きなくくりで統合していくのか悩んでいる。

#### (12) 竹本委員発言要旨

- ・重要なポイントである。環境は環境だけで認めていたかもしれないが、実際は社会的側面なしで環境をやっているわけではない。環境と SDGsをばらばらにやるのは得策ではない。
- ・今の制度に SDGsを加えて、企業側のチャンスを引き出してあげる。それが SDGs 認定制度に入ってくるという形が良い。
- ・色々な制度の一つとして新しく SDGs認定制度をつくることは SDGsの考え方から逆行する。既存の制度を包含する形でつくるほうが良い。

～綾瀬 VR を上映～

#### (13) 竹本委員発言要旨

- ・(交通広場との一体整備による創出される広場)ここで新しく生まれるコミュニティに期待する。

#### (14) 足立区発言要旨(近藤区長)

- ・計画に対する委員からの意見で、区外評価を高めるのは各種取組の結果として達成されていくものがあるとあるが、足立区の場合マスコミにいじられたり、笑いのネタに使われる。
- ・犯罪件数を減らすなど地道な努力のほか、今年度からは区外への情報発信も行っている。治安が悪いというイメージを払拭するために、件数を減らす取組に注力してきたが、イメージが変わらない。
- ・刑法犯認知件数を減らすという事実の積み重ねだけではイメージを変えることは厳しいと痛感している。
- ・人々のマインドを変えていくためにはどうしたらよいか。

#### (15) 竹本委員発言要旨

- ・社会の認知度は自分自身で変えることは厳しいが、例えば売りになるようなものを歴史的なものからたどっていく。
- ・今回の綾瀬でのチャレンジが新たな売りになるかもしれない。まちのイメージを変えていくには、新しい売りをできるだけ輩出していくこと。

以降、内閣府職員との意見交換(割愛)

## 5. 訪問概要:

### (1) チャレンジ学級

どうしても学校へ通えない小・中学生に対し、学校以外の場で少人数ないし個別指導など児童生徒それぞれの状況に合わせて担当指導員が教科学習・小集団活動を行い、学校復帰や進学をサポートしている。実際に指導している適応指導教室指導員から児童・生徒の教室での様子を伺った。



チャレンジ学級の概要について  
説明を受けている様子

### (2) 綾瀬駅西口高架下空き店舗

モデル事業の一つである綾瀬駅西口高架下の空き店舗を視察した。委員からは、20 数年使用されていない店舗がどのように変わるか楽しみであるとの声をいただいた。



空き店舗内を視察している様子

### (3) 綾瀬小学校図書室

地域開放型図書室「わくわく にこにこ 図書の森」を視察した。図書室は小学生、乳幼児とその同伴する保護者が利用でき、土曜日・日曜日・祝日 9時から17時まで開放され、絵本の読み聞かせをするおはなし会を開催している。



図書室について説明を受けている様子

#### (4)居場所を兼ねた学習支援事業

保護者が仕事で帰りが遅い、兄弟姉妹がいて家で勉強できない、塾に通わせるのは経済的に難しいなどの理由で家庭での学習が困難な中学生を対象に、学習の場所と安心して過ごせる居場所を提供している。担当者から支援内容や居場所内での子どもたちの様子を伺った。



事業者から居場所事業について  
説明を受けている様子

#### (5)区役所14階レストラン内こども食堂

足立区役所の食堂ソラノシタ内に中学生までのお子様に対して無料でお食事を提供する「夢食堂」を視察した。毎日15時半～17時の間に食事を提供している。「夢食堂」の食事は寄付で行っており、200円の寄付で子ども一人の食事を提供。または1食あたり10円を預かり、レストラン利用者の20食分で子ども一人分の食事を提供している。



店長から子ども食堂の仕組みに  
ついて説明を受けている様子

以上

## 新潟市 現地訪問 報告書

1. 訪問先 : 新潟市
2. 訪問日 : 令和4年7月15日(金)
3. 訪問者 : 自治体 SDGs 推進評価・調査検討会 神成委員  
内閣府地方創生推進室 徳田主査、古南研修員

### 4. 意見交換概要:

#### (1)新潟市発言要旨

##### ①自治体 SDGs モデル事業統合的取組

統合的取組を構成する「令和版！アグリ・スタディ・プログラム」「農業 DX モデル事業」「バーチャル都市空間を活用した販路拡大」「フードシェア推進による食品ロス削減」に係る取組の現状と今後の展開について説明。

##### ②自治体 SDGs モデル事業補助金活用事業

「持続可能な食と農の創出に向けた取組 PR 事業」「フードサプライチェーン DX ビジネスモデル創出事業」の今後の展開について説明。

#### (2)神成委員発言要旨

##### ①自治体 SDGs モデル事業統合的取組

###### 「令和版！アグリ・スタディ・プログラム」

学びを就農へつなげるため、経営的な感覚や、儲かる農業を実現するための技能を養う学習機会があるとよいと考える。

###### 「農業 DX モデル事業」

農業 DX の可能性をまだ感じられていない方々と一緒に、公募と並行して、勉強会をやるとういよと考える。

###### 「バーチャル都市空間を活用した販路拡大」

技術開発やビジネス実装に時間とコストを要する分野であることから、具体的にここは実現しようというところを絞って実行するのがよいと考える。

###### 「フードシェア推進による食品ロス削減」

農家と子ども食堂などのマッチング先の間にある、生鮮食品の保管と運搬に関する課題の解決に向け、粘り強く対応していく必要がある。

##### ②自治体 SDGs モデル事業補助金活用事業

###### 「持続可能な食と農の創出に向けた取組 PR 事業」

市民の方を巻き込みたいから PR するのか、広く社会全体にアピールしたいのかによって PR 方法が異なることから、まずそこを明確にすべきと考える。

###### 「フードサプライチェーン DX ビジネスモデル創出事業」

ビジネスモデルで想定する規模や売り上げ、コストなどをより具体的に示すとともに、KPI を設定し 3 年間でどこまでやるかを明確にすべきと考える。



## 5. 訪問概要:

### (1)いくとぴあ食花

食育・花育センター、こども創造センター、動物ふれあいセンター、産直市場(キラキラマーケット)などの食と花の交流センターで構成する公設複合施設。このうち、食育・花育センターは、食育・花育に関する各種講座や様々な体験展示、花や緑の展示を通じて、食と花を楽しみながら学べる施設。当日は、施設内の菜園や食育体験の会場視察を行った。

なお、計画書(素案)該当箇所は、P16「⑧ 食と農を支え、魅力を発信する多彩な場の活用」。



食育花育センター外観



食育花育センター内



意見交換の様子

### (2)ぴあ万代

新潟の特産品である米や酒、新鮮な魚、おいしい肉、お土産品などが豊富に揃う民営観光拠点施設。地魚が味わえる寿司や海鮮丼屋などのグルメも充実しており、観光客だけでなく地元の人々も通う人気施設。

自治体SDGsモデル事業として、今年度から新たに実施する「フードサプライチェーンビジネスモデル創出事業」では、産直市場のバーチャル化を予定しているが、本市都心部にある産直市場の一例として、ぴあ万代内の産直市場の視察を行った。

なお、計画書(素案)該当箇所は、P41～42「●バーチャル都市空間を活用した販路拡大」。



産直市場外観



産直市場内

以上

## 岐阜県恵那市 現地訪問 報告書

1. 訪問先 : 岐阜県恵那市
2. 訪問日 : 令和4年7月20日(水) 8:42~14:28
3. 訪問者 : 自治体SDGs推進評価・調査検討会 関委員  
内閣府地方創生推進室 坂野研修員

### 4. 意見交換概要:

#### (1) 岐阜県恵那市発言要旨

##### ① SDGs推進体制について

- ・庁内の推進体制の発足、官民連携した協議会の設置を予定。協議会は、意思決定ができる首脳部と実働部隊で構成。また、専門的な助言や進捗管理を行う懇談会の設置を行う。

##### ② モデル事業の認証制度について

- ・認証対象は現在検討中で、認証基準について初めはハードルを低く、次第にハードルを高くしていくこと、また、利用者にポイント付与も想定している。

#### (2) 関委員発言要旨

##### ① SDGs推進体制について

- ・協議会の実働部隊は、民間が担った方が実践しやすい。困っていることを聞き取りに行くことが重要で、なるべく、簡易な形で実働しやすい体制とする事を意識する。懇談会は格式を持たせるため、例えば認定証を渡すなどして助言を求める。

##### ② モデル事業の認証制度について

- ・専門のアドバイザーが必要で、どのような事を認証するのかを明確にする必要がある。基準を有機野菜のような国際基準にするのか、恵那市独自のSDGs基準にするのか検討が必要。食の安全だけでなく、地元産を使うなど、無農薬に縛られなくて良い。ただ、最終的に海外に販売する時には国際基準が必要となるため、県とともにオール岐阜としての認証制度を構築することも視野に。また、労働環境についてもSDGsの観点からチェックが必要。

- ・愛媛県の内子町にある道の駅からりでは、地域認証の先進的取組みをしている。
- ・地方創生推進交付金の増枠分も活用し、事業を推進するように。また、他地域の先進事例等の情報収集が必要。

### 5. 訪問概要:

#### (1) えな笠置山栗園

##### ① (株)えな笠置山栗園の鈴木社長らから、栗園について説明。

##### ② 関委員発言要旨

- ・売上が1千万程度では、人件費も賄えない。生産者から販売者までで利益が循環するような仕組みが大切。
- ・堆肥作りは、現在の仕組みだけで産業になる。市は生ごみと可燃ごみを分別収集し、生ごみを堆肥化する取組みの推進を地方創生推進交付金を活用し行うべき。



SDGsの最終目標はごみ焼却場をなくすこと。

- ・高知県四万十市の(株)四万十ドラマは栗園～加工場までを経営している。
- ・二次加工までできるようになると、若者の雇用にもつながる。

<p>訪問先写真</p> 	<p>訪問先写真</p> 	<p>訪問先写真</p> 
<p>栗園にて堆肥の説明を受ける</p>	<p>栗園社長から説明を受ける</p>	<p>栗園社長から説明を受ける</p>

## (2) 恵那川上屋

①(株)恵那川上屋 清見人事部長らから説明。

②関委員発言要旨

- ・ぶどう園からワインの生産まで一体化し行うワイナリー方式のように、農家と川上屋が一体化して儲かるように、利益分配の構造を検討し、出口戦略を行うと良い。
- ・いかに強い経済圏を作るかがSDGsとして重要、他地域との広域連携も視野に。

<p>訪問先写真</p> 	<p>訪問先写真</p> 	<p>訪問先写真</p> 
<p>川上屋職員からの説明</p>	<p>川上屋職員からの説明</p>	<p>川上屋職員からの説明</p>

## (3) エルショップ(ジバスクラム恵那)

①ジバスクラム恵那の職員から説明。

②関委員発言要旨

- ・自前の商材がどれだけ増えるかが重要。原価 4 割で利幅は 6 割に。
- ・エルサイトでは、予約とともに決済機能を持たせると良い。
- ・予約機能は個人情報収集できる利点があり、情報発信へ活用を。
- ・今後のためには、もう少し事業が増えると良い。

<p>訪問先写真</p> 	<p>訪問先写真</p> 	<p>訪問先写真</p> 
<p>エルショップ内</p>	<p>エルショップ内</p>	<p>職員からの説明</p>

以上

## 大阪府阪南市 現地訪問 報告書

1. 訪問先 : 大阪府阪南市
2. 訪問日 : 令和4年7月20日(水)13:00~16:00
3. 訪問者 : 自治体SDGs推進評価・調査検討会 秋山委員、藤田委員  
内閣府地方創生推進室 関研修員、栗原研修員
4. 対応者 : 阪南市 水野市長、松下未来創生部長、前田シティプロモーション推進課長、楠本シティプロモーション推進課長代理  
(株)伊藤園 上田部長他5名  
学校法人村川学園 松本事務局長  
(株)漁師鮮度 岩井代表取締役

### 5. 意見交換概要:

#### (1) 秋山委員発言要旨

- ① 設立予定の協議会には市民にも入ってもらう予定であるのか。  
⇒ 地域の人々にも参加してもらうことを検討している。
- ② 万博に向けて外国人向けのツアー等を企画してもいいのではないか。旅の上級者は京都などの主要な観光地以外での滞在を求める傾向もある。  
⇒ 昨年度市役所地下にテレワーク交付金を活用してテレワークステーションを整備したが、今年度もデジタル田園都市国家構想推進交付金を活用し、サテライトオフィスを整備予定であることから、そのようなものを活用できればいいと考えている。
- ③ 農業や漁業にもデジタルは必要であると考えますが、若い人ばかりではなく、高齢者にも活用すべき。デジタルを活用し、就労年齢が10歳延びるような取組みはできないか。

#### (2) 藤田委員発言要旨

- ① 茶畑の運営等について、市民側の受け皿があるのか。  
⇒ 地域の拠点となりコミュニティを形成している「まちなかカフェ」等が市内に40か所以上あり、そのようなコミュニティが受け皿となることを目指している。
- ② そのようなカフェ等と地域資産をつないで魅力を高め、人口増加に繋いでいてもらいたい。  
⇒ これまで公民協働のまちづくりを進めてきたが、中央公民館を設置して社会教育の推進も実施し、多くの市民も巻き込んで仕組みづくりをしている。
- ③ レジャー型の観光ではなく、サテライトオフィス等を活用した都市近郊の滞在型のツアーのようなものが阪南市には恩恵が受けられるのではないか。

### 6. 訪問概要:

#### (1) 桃の木台西住民センター

「まちなかカフェ」等の拠点となる住民センターの一つを訪問。



住民センターを視察

## (2) 茶畑

遊休農地をお茶畑に転換することにより、グリーンカーボンを推進し、茶畑の造成や栽培、食育による連携で地域コミュニティを創出することを目的に、阪南市と伊藤園による連携事業「お茶のある暮らし」プロジェクトとして、2022年4月に市民等によりお茶の苗木を植樹した現地を訪問。



(株)伊藤園より説明

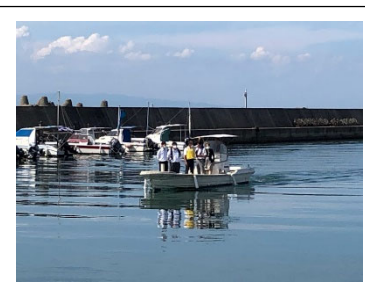
茶畑全景

## (3) 西鳥取漁港

カキ養殖やカキ小屋等を運営しつつ、持続可能な環境保全(アマモ場の再生等によるブルーカーボンの推進)や海洋教育活動に積極的に取り組む、西鳥取漁協と民間企業が共同出資して設立した(株)漁師鮮度を訪問。



(株)漁師鮮度より説明



船上よりカキの養殖場、アマモ場を視察



以上

## 和歌山県田辺市 現地訪問 報告書

1. 訪問先 : 和歌山県田辺市
2. 訪問日 : 令和4年7月29日(金)
3. 訪問者 : 自治体SDGs推進評価・調査検討会 村上座長、関委員  
内閣府地方創生推進室 宮里参事官補佐、印南研修員、栗原研修員

### 4. 意見交換概要:

#### (1) 和歌山県田辺市 SDGs 未来都市計画(素案)説明

##### ① 全体計画概要説明

地域の概要、2030年のあるべき姿、自治体SDGs推進に資する取組、行政体内部の執行体制に係る今後の方針について説明。

##### ② 自治体SDGsモデル事業概要説明

今回の視察先と関連のある「森林環境教育プログラム開発事業」と「たなべ未来創造塾」、補助金対象事業である「地域にコミットするローカルイノベーター・ネットワーク化事業」について重点的に説明。

#### (2) 村上座長発言要旨

- ① 人口7万人規模の計画としては、非常に充実しており、たなべ未来創造塾のビジネス実行率が7割を超えるなど、地に足がついた取組であり、素晴らしい。
- ② 歴史、文化、宗教等、熊野古道が1000年続いてきた背景には様々な要素が考えられるが、それらを研究し、1000年先への継承に向けた今後の取組に活かしてほしい。
- ③ たなべ未来創造塾で若手人材の育成は進んでいるが、現在全国的に高齢化が進む中で、高齢者を巻き込む取組も考えてみてほしい。また、DXの観点でいえば、高齢者もデジタル社会に順応できるような取組も展開してほしい。
- ④ 熊野古道を訪れる外国人は、欧米豪が中心とのことだが、これは熊野古道にはグローバルな価値があることを示していることだと考えられるため、もっと宣伝してよいと思料する。
- ⑤ 熊野古道は田辺市だけで完結するものではないと考えられるので、紀伊半島全体に及ぶような広域連携の取組も推進してほしい。
- ⑥ 田辺市は森林信託の取組は行っているか。  
→ 田辺市は、信託会社を入れるという形ではなく、森林経営管理制度を活用して、市が直接森林所有者に意向調査を行い、その意向に沿いながら市で管理する必要がある森林については、直接経営・管理をしている。
- ⑦ 学社融合の取組は15年前ぐらいから取り組んでいるのか。  
→ 学社融合の取組に関しては、田辺市は全国的にも早かったと思う。教育委員会においても、この考え方を背骨において取組を続けている。
- ⑧ 田辺市は、SDGsとは関係無く、これまで素晴らしい取組を行ってきているが、

今後 1000 年先を見据える中では、SDGsの理念をもっと強く出しながら、これこそが持続可能な取組であるということを示していてもらいたい。

→今後大事なテーマであると認識している。

### (3) 関委員発言要旨

- ①これまで熊野古道が守られてきた歴史はSDGsであるが、今回SDGs未来都市に選定されたことを受けて、SDGsという新たな衣を着た形で各事業を実施してほしい。例えば、たなべ未来創造塾において、SDGsの考え方を理解するようなプログラムを加えてみるのが重要ではないかと考える。
- ②不在村森林所有者の遺産相続により所有の分散化が起きており、日本全体でも大きなリスクとなり得る問題である。そのため、可能な限り遺産相続の前に、市が森林を借りる、あるいは買い取るといった取組が必要である。とりわけ熊野古道に関しては、個人が所有するべきではないと考えている。現在、日本国内でも外国人の土地所有者が増加しており、こうした所有者の分散化を阻止してほしい。そのうえでさらに必要なことは、所有と使用の分離である。土地を所有はしてもいいが、森林の使用権は地域に渡し、そこから産業を生み出す経済のエンジンとして活用する。森林を単に保全するだけでは、永続的に守っていくことは難しいため、森から経済につながる取組を考えてほしい。田辺市には、デジタル田園都市国家構想を含めた林業のIT化を図りながら、トップランナーを目指してもらいたい。
- ③教育を含めた人材育成は非常に重要であり、たなべ未来創造塾のように7割以上がビジネスとして実行しているというケースは、日本ではほとんどない。実績について要因等を分析し、広域連携を含めた横展開を行ってほしい。
- ④観光の質について考えてほしい。熊野古道はキラーコンテンツであり、もっと「格」があってもよいと思う。まち全体の価値向上に向けた全体像が見えないところがあるため検討してほしい。

### 5. 訪問概要:

「たなべ未来創造塾」の修了生を訪問し、それぞれが取り組んでいる地域課題を背景としたビジネスモデルについて説明を受けながら、意見交換が行われた。

#### (1) 株式会社中川(たなべ未来創造塾2期生)

田辺市の約9割を占める森林であるが、伐採面積に対して4割しか植樹されていない現状から、地域のどんぐりを苗木に育て、山に還す「熊野の森再生事業」に取り組んでいる。子どもたちがどんぐりを拾い、学校で苗を育成している。

また、林業のイメージを変え、誰一人取り残さない雇用をつくるため働き方改革にも取り組んでいる。そのひとつとして、林業資材運搬型ドローン「いきたそ」の開発がある。ドローンを用いることで、重い荷物を運ぶ重労働が解消され、女性が働きやすい環境となった。その他、従業員への起業支援も行っている。





どんぐりの苗木



木を伐らない林業やどんぐり  
苗づくりについて説明



林業資材運搬型ドローン  
「いきたそ」

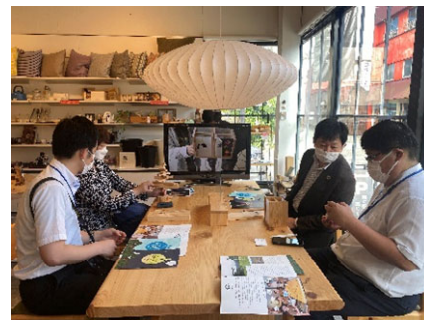
### (2) Re-barrack INTERIOR(たなべ未来創造塾1期生)

枝打ちや間伐が適切にされないことにより、スギやヒノキへの食害が増加。見た目の悪さから「あかね材(虫食い材)」として扱われ、単価が下がってしまう問題が起きている現状から、あかね材を活用したブランディングチーム「BOKUMOKU」を結成。「素朴な木」を意味し、メンバーは、林業ベンチャー、製材所、木工所、一級建築士、デザイナーである。

子どもたちにあかね材の問題に触れてもらうため、箸やクリスマスツリー等を手作りするワークショップを開催。虫食いをデザインや個性と考え、机やイス、ソファ等のものづくりに取り組んでいる。



あかね(虫食い材)材



BOKUMOKU での取組について説明

### (3) 株式会社日向屋(たなべ未来創造塾1期生)

年々増加する鳥獣被害から地域の農業を守るため、地域の若手農家と連携して狩猟チーム「TEAM HINATA」を結成。捕獲して、解体するだけでなく、出口である食べるころまで取り組むため、ジビエ加工施設「ひなたの杜」を誘致。また、シェフと連携し、ジビエの普及にも取り組んでいる。

農業においては、園児や高校生とともに、耕作放棄地での栽培や加工品の開発をしており、農業の6次産業化に努めている。

今後は、ジビエや柑橘類の残渣を活用し、堆肥化をすることで地域資源の循環の環境を整えることを目指している。



ひなたの杜外観



日向屋の取組説明

(4) Restaurant Caravansarai(たなべ未来創造塾4期生)

梅蔵をリノベーションした店内で、本格フレンチが味わうことができるお店。店内で出る残渣を堆肥化し、畑で肥料として活用している。

「ひなたの杜」で解体・加工したジビエ料理等を提供しており、店内ではあかね材のテーブルを使用している。



メニュー等の説明



堆肥についての説明

以上



## 鳥取県 現地訪問 報告書

1. 訪問先 : 鳥取県
2. 訪問日 : 令和4年7月15日(金)
3. 訪問者 : 自治体SDGs推進評価・調査検討会 村上座長、秋山委員

内閣府地方創生推進室 木下主査、坂理研修員

### 4. 意見交換概要:

#### (1) 鳥取県発言要旨

##### ① 鳥取県の現状

- ▶ 全国に先駆けた先進的な取組を様々行っており、徐々に成果が出つつある一方で、高齢化先進県でもあり、人手不足や後継者の確保など、全国どこでも抱えるであろう問題が全国より一歩早く訪れるのではないかと危惧している。
- ▶ 住み慣れた地域で住み続け、豊かな自然や文化等の地域資源を活かしながら将来にわたって持続可能な地域であり続けることは、まさにSDGsの理念に沿ったもので、地方創生SDGsに取り組んでいく必要があると考えている。
- ▶ 地方創生とSDGsは非常に親和性があるので、SDGsを地方創生の原動力に取組を進めていきたい。

##### ② SDGs 未来都市計画概要及びポイント

- ▶ 鳥取県は、SDGsの達成に資する素地がもともとあり、その力を遺憾なく発揮していただくための仕掛けづくりや環境づくり、活躍の後押しをするのが行政の役割であり、そのための計画策定を進めている。
- ▶ 令和2年度から本格的にSDGsの取組を始め、SDGs宣言を発出。県の各種計画にSDGsの理念やゴールとの関係性を盛り込み、SDGsを県政の柱に据えて取り組んでいる。
- ▶ 鳥取県では官民連携の体制が出来上がっており、ステークホルダーと有機的に連携して活動できるような仕組を構築している。
- ▶ パートナーシップにより取り組んでいることがポイントであり、県と民間企業・各種団体など様々な分野で構成している「とっとりSDGsネットワーク」を組織し、SDGsの県民運動化の旗振り役を担い、幅広い活動が可能になっている。
- ▶ 様々な取組を展開していったことで、県民のSDGsの認知度が高まり7割を超えている。
- ▶ 鳥取県では、「人」「企業」が最大のリソースであり、最大限活躍いただくことが重要。県と金融機関、商工団体など、官民が連携して支援していくことで地域の人財や企業の成長を促していきたいと考えている。
- ▶ 成長した人財や企業が地域に踏み出していくことで、地域の活性化や企業の価値向上により、資金や新たな人財の流入につながり、更には事業規模拡大や再投資といった好循環をうみだしていくことが狙いである。

## ( 2 ) 村上座長発言要旨

- 取組全般 鳥取県における地方創生SDG sの取組は大変意欲的で、多くの自治体のモデルとなるものである。
- 人財育成 幅広い人財育成の取組は、地方自治の出発点となるものである。人財育成にエネルギーを注いでいる鳥取県のプログラムは、ユニークでよくまとまっている。人財を中心にまとめた地域創生SDG sの取組は、他の自治体のモデルになるものである。
- 高齢者の人財育成 日本はマイナンバーカードなど、多くの側面でDXインフラの普及が極端に遅れている。鳥取県における地域や高齢者と密着したSDG sの取組を活用して、この面でも全国のモデルとなるようなDX推進の活動を推進してほしい。高齢化や過疎化などの弱みをカバーするには、高齢者におけるDX環境の整備・普及が非常に大切。若い人が使いこなしているDXを、高齢者も使いこなせるようになるような取組を展開してほしい。
- 企業と人財 企業がSDG sに取り組んでいるかどうかについて、若い人は大変関心が高い。鳥取県の企業におけるSDG sの幅広い取組は、企業ブランドの向上など非財務的価値の向上をもたらしている。企業におけるSDG sの取組がよい人財の採用に繋がるので、鳥取県の進んだSDG sの取組が新しい人財採用に貢献しているという視点も強調していただきたい。
- ジェンダー・女性 今回はジェンダーや女性活躍の説明が十分ではなかった。人財育成の取組の中で、女性活躍の視点も取り込まれているので、もっと強く社会発信をしてほしい。

## ( 3 ) 秋山委員発言要旨

- 商工会議所という民間企業の組織団体が中心になっているのは、よくある県の施策推進体制とは違う点だと思う。小さい県のメリットであり、とてもユニークである。
- 官民が連携した組織で目標を持って一緒に取り組むことは今まであまりやっていないので、目標やKPIを立てる等、評価するシステムを構築して支援する必要性を感じる。
- 課題の把握やKPIの達成度など、定期的なチェック機能を体制に組み込むといいのではないか。
- 農業や林業など一次産業は高齢化しているため、DXをうまく使い足りないところをテクノロジーで補うことで労働人口が増えるので、モデルみたいなものを作って欲しい。
- 子供の教育、SDG s教育も大切だが、高齢者のDX教育や生涯教育なども掲げるといいと思う。
- 橋渡し人財は本当に必要だが、実際には難しいと思う。自然にやっていたら育つものではなく、産官学全体で戦略を考えないといけない。
- 人財育成は、順調に行くことが必ずしもいいわけではなく、試行錯誤しながら進めていく中で育成されると思うので、うまくいかなかった事を含めて記録した上でマニュアル化できればいいのではないか。

## 5 . 訪問概要 :

### ( 1 ) 隼L a b .

対応者：株式会社シーセブンハヤブサ 諸岡 若葉 コミュニティマネージャー  
八頭町企画課地域戦略室 山田 健吾 主任

#### ①施設内視察

諸岡マネージャーの案内により、施設内を見学。

## ②意見交換

隼L a b. の取組概要、運営体制、これからの展望などについての説明の後、地域住民との関わり方や、当事者からの声をくみ上げる必要性等について意見交換を行った。

## ③秋山委員からの主な意見

- 素晴らしい取組。地域に住む人がどう関わり、声（課題）をどうすくい上げているのか。企業や行政が考える課題とそこに住む生活者の課題が合致していないことが多々ある。
- 地域住民が単なる利用者としてだけでなく、主体的にコミットして一緒に事業を創っていくくらいの関わりがあるといいと思うが、ここ（隼L a b.）では、それが可能だと思う。素晴らしい拠点があり、いい企業もあるからやってみたらいいのではないかな。



施設内視察



隼Lab.紹介



意見交換

## (2) 久松小学校

対応者：大高 勝 校長、松田 淑恵 教諭

### ①取組紹介

松田教諭から学校での取組事例を紹介。

### ②意見交換

初等教育から様々な問題について考える機会があることの重要性について意見交換を行った。

### ③秋山委員からの主な意見

- ジェンダーの項目が少ないと感じたが、大人になると（感性や考え方）変えるのは難しいので、子どもの時から理解して行動するのが大切。
- （ジェンダーについて等）疑問に感じていることを伺い知ることができ、初等教育から様々な問題を考えることは素晴らしい。
- 日頃から学ぶことによって、SDGsをテーマにした場でなくても自然に話題に上がるようになると、一生ものとなっていく。



取組事例紹介



意見交換



意見交換

## (3) 鳥取砂丘ビジターセンター

対応者：前田 武志 館長

環境省近畿地方環境事務所浦富自然保護官事務所 寺内 聡 自然保護官  
鳥取砂丘を視察いただいた後、風紋発生の条件や原理について実験装置で体験いただき、センタ

一内の視察を行った。



砂丘視察



センター内視察

以上

## 八代市 現地訪問 報告書

1. 訪問先：八代市
2. 訪問日：令和4年8月26日(金)
3. 訪問者：自治体SDGs推進評価・調査検討会 竹本委員(オンライン参加)  
内閣府地方創生推進室 谷参事官、菊池研修員、栗原研修員

### 4. 意見交換概要：

#### (1) 八代市 発言要旨

##### ① 八代市の農産物について

八代市を代表する農産物であるトマト及びイグサについての特色や課題、地域の取組をご紹介します

##### ② 八代市SDGs未来都市計画及び自治体SDGsモデル事業について

八代市の課題やSDGs未来都市計画の概要、自治体モデル事業として取り組む「ビジネスマッチングによる高付加価値促進事業」、「もったいない食品利活用推進事業」、「貨客混載による買い物支援事業」についてご説明

#### (2) 竹本委員 発言要旨

八代市の未来都市計画や取組、制度についてよく理解できた。

食料を軸とした事業について、フードロスの対応だけでなく、ブランディングやファウトレイジング、人材登用、広報などにつなげることで、市内に人口が戻ることができる環境をつくるというところで、SDGs未来都市の趣旨を具現している点を確認できた。

そのうえで、八代市の説明内容について、質問を2点と要望が1点。

- ① プレゼンテーションにもあった「やつしろ未来創造塾」が果たす役割は大きく、今後も自治体SDGsモデル事業の推進の力になっていくものと想像している。そこで「やつしろ未来創造塾」の主体や市がどのように関連しているのか、民間の方(リソースパーソン・講師)をどのようにしているのか、研修の対象をどのようにしているのかについてお尋ねしたい。
- ② SDGs宣言制度は推進にあたっての大きな柱となっているものと思うが、この制度をより企業が登録しやすいフレンドリーな制度としていくために、どのように設計しているのか。  
現在設計中とは聞いているが、行政としての考え方を伺いたい。
- ③ 「貨客混載による買い物支援事業」は、食料を軸としつつ、遠隔地の方の生活を豊かにする点でいい試みであると思う。  
一方で、高齢者の健康増進にも、間接的であれ貢献することが可能であると思われるので、遠隔地に住む高齢者の方の健康増進についても、モデル事

業の中に位置づけることを要望したい。

### (3) 八代市 発言要旨

- ① 「やつしろ未来創造塾」は、八代市と包括連携を結ぶ熊本大学の金岡教授に講師をお願いし、八代市役所などの公共施設で実施をしている。  
参加者は自身の事業や地方創生について課題意識や関心を持っている方がオープンに参加していただける体制となっている。
- ② 宣言制度については、八代市の事業者において、「どのようにSDGsに資する事業をされているのか」を書いていただくことを想定。  
熊本県登録制度への申請を行った事業者から、市の宣言制度は申請を簡素にしてほしいとの希望をいただいているため、八代市及びSDGsとのつながりを書いていただくことで申請ができるような制度としたい。  
2020年「地方創生SDGs登録・認証等制度ガイドライン」でいうところの「宣言」の区分で実施し、これからSDGsに取り組みたいと企業などにも、裾野を広げていきたい。
- ③ 「貨客混載による買い物支援事業」では、商品の自宅配送による事業者の負担が課題でもあるので、公民館などに配送を行い、買い物を依頼した人が集まることや、配送の時間に移動販売を組み合わせるなど、コミュニティを形成し、地域を活性化する取り組みを検討したい。

### (4) 谷参事官 発言要旨

「地方創生SDGs登録・認証等制度ガイドライン」について、宣言であっても認証や登録にその行動が劣るものではなく、より自由度が高いというものと理解していただきたい。

八代市であれば、「市が目指す食の活用について、この企業は〇〇をする」ということや、市の計画になれば「SDGsの〇〇に位置づけられた、〇〇をする(〇〇を実現する)」ということが重要。



## 5. 訪問概要:

### (1) エコイトやつしろ

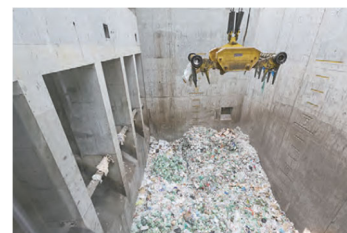
八代市のごみ処理施設であるエコイトやつしろで行っている、燃えるごみの処理と発生する熱を利用して発電を行う「エネルギー回収推進施設」、缶類・ビン類・古紙類・プラスチック類など資源物の中間処理を行う「マテリアルリサイクル推進施設」を見学いただいた。



蒸気タービン発電



高速回転破砕機



ごみピット・ごみクレーン

### (2) 西田精麦株式会社

・八代市で穀物を加工して、精麦作業や麦を使った商品開発、飼料製造を行っている西田精麦を訪問。穀物加工を行う食品工場や輸入した穀物の貯蔵倉庫(サイロ)を見学いただいた。

また、食品開発におけるバイオマス包材の活用やミャンマーでJICAと協力して行っている海外支援についての説明をうけていただいた。



食品工場見学



海外支援等の取組説明



埠頭サイロ見学

以上

## 熊本県上天草市 現地訪問 報告書

1. 訪問先:熊本県上天草市
2. 訪問日:令和4年7月1日(金)12時40分～16時15分
3. 訪問者:自治体SDGs推進評価・調査検討会 浅見委員  
内閣府地方創生推進室 栗原研修員
4. 対応者:上天草市企画政策部企画政策課 岡元課長、鬼塚係長、泉田参事、飯野主事
5. 意見交換概要:12時40分～13時40分

### (1)上天草市発言要旨

○資料に沿って計画全体の概要について説明。

- ・ブルーカーボンについて
- ・前島について
- ・千巖山について
- ・樋合島について
- ・くまもと経済(月刊誌)に記載されている上天草市内(前島・樋合島)の企業の取組について



### (2)浅見委員発言要旨

- 事業が始まったばかりのものもあるが、若干、事業の持続可能性を心配している。  
ブルーカーボンオフセットはどれだけの吸収が見込めるのか。  
→(市)これから調査していく。環境省の資料によると、有明海、八代海など海域全体の数値は出ているが、アマモなど種類ごとには出ていないので、これから調べることになる。
- いろんな特徴の島がある中、横展開を図るといのはどのようにやっていくのか。  
→(市)例えば、大矢野島のワーケーションの場合は、民間事業者が施設整備を行うこととしている。一方で、ワーケーション自体は、市の事業としても推進しており、大矢野島だけでなく、松島、姫戸、龍ヶ岳とそれぞれ市の施設もあるので、大矢野島を拠点に展開することが可能と考えている。
- 今後、観光客は、ワーケーションにおいても取り合いになるのではないかと心配している。需要をどう見込んでいるのか。  
→(市)大矢野島大手原地区で施設整備を行う民間事業者においては、当然、需要及び経済効果を予測した結果の投資であると考えている。また、この他、同じ大矢野島や前島でもグランピング施設整備の動きが見られるため、一定の需要が見込まれているものと考えている。
- 2040年までに人口が2/3になるという推計の中で、一方で観光振興が進められているが、人口減少と雇用確保の関係はどのように捉えているのか。  
→(市)熊本都市圏から1時間程度ということもあり、生産年齢人口が流出してい



るところ。一方で人口減少の抑制を図るため、都市部からの副業人材の確保で外部から労働者を取り込み、シェアリングエコノミーの推進で、今いる人の潜在的な労働力確保にも取り組むこととしている。

○市内で働いている人は、おおまかにどのくらい市内に住んでいるのか。熊本都市圏のベッドタウンとなっているのか。

→(市)傾向としては、熊本市、天草市など市外に働きにでている人も多い。ただ、熊本天草幹線道路が国の直轄事業で行われているが、これが完成すると本市から熊本都市圏まで 30 分程度になる。委員御指摘のとおり、市では完成を見据えたまちづくりを考えており、ベッドタウン的なものを目指している。

○空き家は多いのか。多いのであれば、新しい居住者のために空き家を活用できればいいと思うが。

→(市)古民家再生協会と連携して空き家の利活用方法を考えており、発生抑制にも力をいれていくこととしている。

○グローバルベンチャーラボについて、まちづくりのリーダーを育成していくというのは、実際にどのようにやっていくのか。

→(市)地域おこし協力隊の OB を中心に、グローバルベンチャーを創るリーダーの育成及び組織全体の構築を図るために、新たに地域おこし協力隊を導入するとともに、地方創生推進交付金を活用して組織づくりのための伴走支援を行うこととしている。

○外から来た人がリーダーになるのは大事だが、もともと住んでいる中の方がリーダーになることも重要。そこはどのように考えるか？

→(市)グローバルベンチャーラボを運営する中心的人物は、地域おこし協力隊 OB を充てたいと考えており、本人の意向も確認している。当該地域おこし協力隊 OB については、元々は外から来た人だが、定住して5年以上経ち、我々としては、中の人という認識である。また、グローバルベンチャーラボは、地元民間事業者からの助言をもらいながら運営していくこととしており、その民間事業者の中には若い経営者もいるため、市内の人材もリーダーとして関わってもらうことが期待できる。

○高齢者、障がい者の社会参加は。障がい者の場合は、ハンディキャップがあるので仕組みが必要だが何かやっているか。アバターを使って接客サービスをする、という事例もあり、今後そのような工夫も必要になる。

→(市)高齢者については、シルバー人材センターへの加入を推進し、社会参加を促している。障がい者の雇用については、市内でNPO法人が障がい者を対象にした作業場を設けており、社会参画への工夫を行っている。

○第一次産業に係る消費拡大とはどのようなことをしているのか。

→(市)市では、ブランド推進協議会を設置しており、1次産品で規格外のもので加工品をつくり消費拡大に取り組んでいる。新型コロナで一次産業の販売が止まってしまったこともあるので、サプライチェーンの充実として EC の強化を図っていきたい。

○ブランド認証は各地でやっているが、消費拡大には消費者にアピールする必要があるので、工夫が必要。

→(市)湯島大根のブランディングを地元の熊本県立大学と連携して行っているところ。委員御指摘のとおり、ブランド認証から生産向上、販売拡大につなげ経営の安定化を図るため、ブランディングの更なる工夫を行いたい。

○教育について。遠隔授業等の有効活用と書いているが、具体的にはどういうことをしているか。

→(市)GIGA スクールとして個人にタブレットを配布している。不登校の子どもたちの学習が遅れないようにすることも目的の一つ。

○大学でも STEAM 教育に貢献した方が良いという議論がある。中高でも使えるようなコンテンツがあり、全国どこでも使えるような気もするので、そのようなものを積極的に中高の先生が使っていいのではと思っている。

→(市)教員の働き方改革の流れで県立高校では課外が無くなってきている。そのような中、市内唯一の上天草高校では、大学受験や公務員試験に対応できるようタブレットで学べる教材を作っているが、委員の御意見を参考にさせていただく

○市内中学生の上天草高校進学率は？

→(市)だいたい3割くらい。7割は市外に出ているが、上天草高校での取組として3年前から文科省の指定を受け、リーダー育成のための起業家教育を行っている。その中でビジネスプランを考えたりしているが、それと並行して市教育委員会でも中学校での起業家教育も行っており、高校生と中学生との交流も図っているところ。

○大学生と高校生の交流があると、さらに良い取組となると思う。

→(市)委員の御指摘はもっとも。その取組の一つとして、今年度、慶応義塾大学のビジネススクールが上天草高校のビジネスプランの発表会に参加し、上天草高校生徒にアドバイスすることになっている。

## 6. 訪問概要:13時40分～16時15分

### (1)千巖山

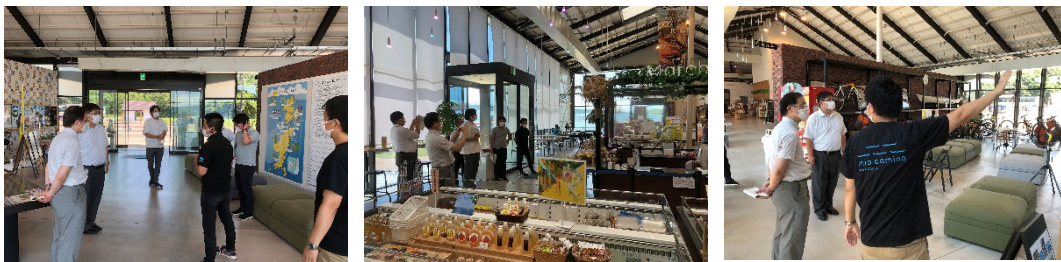
千巖山(せんがんざん)は、標高162mで国指定名勝、国指定文化財の景勝地。その名のとおり奇岩、怪岩が重なり合って、岩の間には、古松やミツバツツジが群生している。眼下には、宇土半島から大矢野島、永浦島、池島、前島、上島を結ぶ天草五橋とともに雲仙、島原、八代海を見渡すことができる。今回の視察では、自治体SDGsモデル事業で実施する取組の舞台となる島々を一望した。



➤千巖山からの景色を眺望する浅見委員

## (2)前島(ミオカミーノ天草)

本市においては、前島地区を観光需要の拡大を図るための重点整備地域として位置付け、大人から子どもまで楽しめる集客ゾーンとしている。また、前島地区における観光振興の効果を市内産業に波及させ、市内全域の経済活性化につなげることを目的に国の社会資本整備総合交付金を活用し、観光交流活性化施設「ミオカミーノ天草」を整備(令和元年10月供用開始)。ミオカミーノ天草は、観光案内、農水産物加工商品の販売、ボルダリングなどのアクティビティ体験、飲食ができる機能を備えている。また、脱炭素の取組としてレンタサイクル、レンタカーを導入し、パークアンドライドを推進している。



➤ミオカミーノ天草の施設概要について説明を受ける浅見委員

## (3)樋合島(フィッシャリーナ天草、樋合島リゾート開発地)

フィッシャリーナ天草は、60ft クラスの船も係留可能なバースなど、日本でも有数の設備を誇る平成9年4月に開業したマリーナである。また、マリーナを一望でき、アフタークルージングのひと時をリラックスした雰囲気でも過ごすことができるクラブハウスも整備されている。

また、樋合島リゾート開発については、自治体SDGsモデル事業における島々の取組の一つとして、自然と共生するまちづくり、関係人口の増加を図るためのリゾート施設が整備される予定である。今回の視察では、建設予定地を視察した(車中からの目視のみのため、写真無し)。



➤フィッシャリーナ天草を視察する浅見委員

➤樋合島リゾート開発のイメージパース

## (4)宮津海岸

藻場の再生等を通じて、「大気中のCO<sub>2</sub>を吸収・固定化することによる脱炭素化」と「産卵や幼稚仔魚に成育の場を提供することによる豊かな漁場の再生」を実現するため、ブルーカーボン事業の可能性を検討(自治体SDGsモデル事業)すること

としており、その実施地域としている宮津海岸を視察した。



➤宮津海岸で藻場を視察する  
浅見委員

#### (5)大矢野島大手原地区

本市においては、2021年度から「遊ぶ×働く×移住する」をキーワードにワーケーション事業に取り組んでいる。また、市内民間事業者が新型コロナの影響で衰退した観光産業を復興させるために、市と連携してワーケーションリゾートとして拠点施設の整備を進めている。今回は、自治体SDGsモデル事業の取組の一つとしているワーケーションリゾートの建設予定地を視察した(※車中からの目視のみのため、写真無し)。



➤ワーケーションリゾートの  
イメージパース

以上